

2024年  
5月5日(日) 18時開演・17時30分開場

『沖縄久高島のイザイホー』上映会 (18時～19時50分)

〔2022年デジタルリメイク版〕上映時間110分

第二部：トークセッション(20時10分～21時30分)

「イザイホー再考」

―王権儀礼と民俗祭祀の観点から―

北村皆雄 ―ヴィジュアルフォークロア代表  
ドキュメンタリー映画監督

山本ひろ子 ―和光大学名誉教授  
宗教思想

伊藤好英 ―藝能学会会長  
日韓比較芸能史

赤坂憲雄 ―民俗学者

〔両日共通〕文化財映像研究会

【統括】岡田一男

東京シネマ新社代表、『沖縄久高島のイラブー』監督

【総合司会】石村智

国立文化財機構 東京文化財研究所無形文化遺産部部長

【司会進行】三島まき

学習院大学非常勤講師、法政大学沖縄文化研究所国内研究員

# 沖縄久高島のイザイホー

## 特別上映会＋トークイベント

### 沖縄久高島のイラブー

#### 完成上映会＋成果報告会

2024年  
5月6日(月) 振替休日 18時開演・17時30分開場

『沖縄久高島のイラブー』上映会 (18時～19時50分)

〔2024年制作〕上映時間110分

第二部：トークセッション(20時10分～21時30分)

「ドキュメンタリーにおける記録と表現」

―沖縄久高島の自然と文化を後世に伝えるために―

北村皆雄 ―ヴィジュアルフォークロア代表  
ドキュメンタリー映画監督

乾尚彦 ―元学習院女子大学教授  
久高島年中行事研究会

春日聡 ―映像人類学者、国立歴史民俗博物館客員准教授  
多摩美術大学講師、『フーミンの島』監督

遠藤協 ―記録映像作家  
『廻り神楽』共同監督



文化庁文化芸術振興費補助金  
(映画創造活動支援事業)  
独立行政法人日本芸術文化振興会

文化庁

『沖縄久高島のイラブー』は、文化芸術振興費補助金の助成を受け制作いたしました



5月5日、6日の各日お申し込み(全席指定)・・・[一般]2000円(前売り券1700円) [学生]1200円

5月5日、6日の両日お申し込み(全席指定)・・・[一般]3500円(前売り券3000円) [学生]2000円

※当日券、文化財映像研究会事務局にお申し込みの場合は、座席のご指定はできませんのでご了承ください

▶チケット取り扱い

2月3日(土)販売開始(前売り券の販売は5月4日まで)

キノチケットカウンター(紀伊國屋書店新宿本店1階 10時～18時30分)

キノチケオンライン(24時間受付) <https://store.kinokuniya.co.jp/ticket/>

▶申し込み・お問合せ・・・文化財映像研究会事務局(5月4日まで)

メール・・・[bunkazaieizou@gmail.com](mailto:bunkazaieizou@gmail.com) 電話・・・090-3402-7868(13時～18時)

※メールかお電話にてご予約ください。チケットご購入の際の振込手数料はお客様ご負担でお願いいたします

『沖縄久高島のイザイホー』DVD(冊子つき)好評発売中

『沖縄久高島のイラブー』DVD(冊子つき)5月5日発売予定

# 紀伊國屋ホール

東京都新宿区新宿3-17-7 紀伊國屋書店新宿本店4F

○JR新宿駅東口より徒歩5分

○地下鉄 丸ノ内線、副都心線、都営新宿線「新宿三丁目」駅下車B7出口

〔主催〕文化財映像研究会

〔協力団体〕アジア民族文化学会、沖縄文化協会東京支部、藝能学会、東京那覇会、日本映像民俗学の会、法政大学沖縄文化研究所、薫民族舞踊文化財団

サポーター募集●沖縄久高島イザイホー  
映像アーカイブ化にご支援ください  
[https://readyfor.jp/projects/monthly\\_izaiho](https://readyfor.jp/projects/monthly_izaiho)  
(QRコードまたは「イザイホーサポーター」で検索)



## 5sun 『沖縄久高島のイザイホー』特別上映会+トークイベント

### イザイホーとは

イザイホーは、沖縄の久高島で600年以上前から12年に一度、午年に行なわれてきた重要な神事である。久高島は、首里の東に位置し、神聖な島とされ、ノロと呼ばれる巫女を中心に神女組織で継承されてきた。久高島で生まれ育った女性は、祭祀を行なう役割を与えられ、その就任儀礼がイザイホーである。沖縄の社会では、女性がおもに祭祀を行ない、男性が政治的な役割をもつ伝統があった。これらは、日本古来の祭祀の原型を留めているとされ、多くの研究者の注目を集めてきた。

### 1978年のイザイホーの完全な記録映像

1978年におこなわれたイザイホーには、大勢の見学者が訪れ、多くの記録が残されたが、複雑な祭祀を詳細に追い続けたものは少ない。岡田一男の撮影隊は、4台のカメラで、17時間の映像を記録した。その一部は、1979年に公開されたが、残りの映像は岡田一男によって保管され、祭祀の全貌をとどめた唯一の映像記録として残されていた。

### 半世紀の時季(とき)を超え高精細画像で甦るイザイホーの世界

イザイホーは社会と信仰の変化、後継者不足のため1978年を最後に休止が続いていた。イザイホーの貴重な映像を保存するため岡田一男、石村智、三島まきは、文化財映像研究会を組織し2021年にクラウドファンディング(READYFOR「沖縄久高島の祭礼イザイホー | 貴重な記録映像をデジタル化し後世へ」)を開始し、大勢の方々の御支援により目標を達成した。これによりすべての16ミリフィルム映像の高画質デジタルスキャンが実施され、17時間分の動画が2K-Full(2048×1556ピクセル)、24fpsのハイビジョン映像に変換された。本映画は1978年版の映画をリメイクし、画面のアスペクト比も現代の映像機器にあわせて16:9に変更した。また、祭祀歌謡については原音の書き起こし、最新の研究成果に基づく現代語訳を試み、テロップを追加した。デジタル化した映像は今後整理し、データベース化し公開することをめざしている。本映画はその作業の第一段階の成果といえるものであり、この貴重な映像を多くの方々にご覧いただくことを願っている。

### 第二部 トークセッション 「イザイホー再考」 —王権儀礼と民俗祭祀の観点から—

第二部のトークセッションでは、王権儀礼と民俗祭祀に焦点をあて、さまざまな角度からイザイホーの再検討をおこないたい。1966年・1978年のイザイホーを撮影し、久高島の年中行事の記録もおこなった北村皆雄氏、折口信夫の学統を受け継ぎ、1978年のイザイホーを調査し、韓国の芸能と日本の芸能の比較研究をおこなっている伊藤好英氏、中世神話の概念を打ち立て、神楽など宗教芸能に造詣が深い山本ひろ子氏、王権儀礼について数多くの論考を提出されている赤坂憲雄氏をゲストにお招きし、それぞれのご専門からご意見を賜り、ディスカッションを行ないたい。また会場の皆様からもご意見、ご質問をお寄せいただき、今後のプロジェクトの参考にしたいと考えている。

トークイベント(5/5、5/6)のプログラムに変更がある場合は、フェイスブック「イザイホープロジェクト」のページにてお知らせいたします。



## 6mon 『沖縄久高島のイラブー』完成上映会+成果報告会

### 沖縄の伝統文化 イラブーとは

イラブー(エラブウミヘビ)は、琉球王国の時代から特別な意味を持ち、久高島の人々はイラブーを燻製にし、首里王府に献上してきた。琉球王国が解体した後も久高島のイラブー漁は続けられ、久高島のイザイホーの祭礼とともに、沖縄の伝統文化として残されてきた。しかし、1978年に開催されたイザイホーの祭礼が中断すると、その後イラブー漁・燻製作りも一度途絶えてしまった。イザイホーの祭礼とイラブー漁・燻製作りには密接な関連があったと考えられる。

### 1978年のイラブー漁・燻製作りの記録映像

幸い、近年、久高島の人々の努力により、イラブー漁・燻製作りの伝統は復活を果たした。そして、1978年のイラブー漁・燻製作りの映像は、伝統が途切れる以前の様子を記録したものとして歴史的に高い価値を持っていると思われた。

そこで文化財映像研究会は、デジタル化されたイラブー漁・燻製作りの映像を元に、新作映画『沖縄久高島のイラブー』を制作すべく再度、クラウドファンディング(READYFOR 沖縄の伝統文化イラブー | イザイホーと共に後世へ)を開始、多くの方々からご支援をいただき、目標を達成することができた。そして、本プロジェクトは皆様からいただいた支援金に加え、日本学術振興会の科学研究費の助成、文化芸術振興費補助金の助成を受け『沖縄久高島のイラブー』の映画の制作に取りかかることができたのである。

### 映画『沖縄久高島のイラブー』の完成に向けて

2023年10月、イラブーの大漁祈願が行われるハンジャナシーの祭りに合わせて撮影日程を組み、島の伝統を守ろうと懸命に努力する姿を撮影することができた。1978年のイザイホーと並行して撮影された映像と、現代の久高島でイラブーにかかわる人々のインタビューにより、親から子へ、先輩から後輩に伝えられる信仰や伝承の大切さを映像を通して伝えることができた。1978年の映像も貴重であるが、2023年現在の記録も久高島を考える上で同等の価値をもつ。とくに、1978年の記録に登場した、当時最年少だったナンチュの古波蔵節子さんはじめ、イラブーに関わる多くの方々の貴重な証言を映像におさめることができたのは幸運だったといえよう。さらに、海洋生物学が御専門の山本拓海氏から、久高島は、沖縄の中でも優れてウミヘビの居住しやすい環境であり、民俗伝承の厳しい定め(かつては、久高ノロ家、外間ノロ家、外間根屋の三家のみがイラブーの捕獲権を所有していた)が、イラブー漁を持続可能なものにしたのではないかと貴重なご指摘をいただいた。これは、久高島の伝統的な信仰が、環境保護に重要な役割を果たしていたという点で示唆にとむ証言である。

経済活動が必ずしも生活の中心とはならない久高島の伝統的な社会において、自然とともに暮らし、小さな島で生きるために支え合い、自然と神に対して祈りを捧げる姿は、喧騒に満ちた現代社会に生きる我々に、目には見えないが確かに存在する大切な何かを呼び起してくれるのである。

### 第二部 トークセッション 「ドキュメンタリーにおける記録と表現」 —沖縄久高島の自然と文化を後世に伝えるために—

ドキュメンタリー映画を制作する者にとって、記録か表現かというテーマは、重要であり、優れたドキュメンタリー映画は、その両方をかね備えているといえよう。このトークセッションでは、長年ドキュメンタリー映画の制作にかかわってきた文化財映像研究会代表の岡田一男が、四人の専門家をお招きし、映像で民俗を記録することの魅力と意義について意見交換を行なう。

ご登壇いただく専門家は、1966年のイザイホーの撮影からスタートし、その後、半世紀以上にわたり活躍し続けるドキュメンタリー映画監督の北村皆雄氏、民俗建築の調査から出発し、アジアや日本各地の伝統社会を調査し写真や動画で記録におさめ、久高島の年中行事のデータベース化にも携わった乾尚彦氏、昨年『ブーンミの島』を完成させ、沖縄宮古島の伝統的な芋麻文化を映像で記録し、その学術的な意義と地元の伝承記録に貢献したことにより高い評価を受けた春日聡氏、東北地方に伝承される「廻り神楽」を記録し、大震災という危機的状況を信仰と芸能の力によって乗り越える様子を美しい映像で伝えることに成功した遠藤協氏の四名である。これらの専門家からご意見をうかがい、沖縄久高島の民俗祭祀の映像記録をどのような形で公開し、今後の伝承記録として残したら良いかなど、参考にさせていただきたいと考えている。